

最新看護技術周知のための WEB ネットワーク構築の試み —高齢者ケアにかかわるネットワークづくり—

原 等子, 永吉雅人, 角山裕美子, 須藤陽子
新潟県立看護大学 看護学部 看護学科

キーワード:e ラーニング, ネットワーク, 高齢者, 看護技術, EBN

目的

本学の所在する地区は過疎地域にあり都市部へのアクセスが良いとは言えず、高齢者に携わる看護職だけでなく医療や福祉に携わる専門職の各種学会や研修会などで得られるさまざまな情報が得にくい現状がある。そのため看護技術や介護技術に関して学会等で議論されているような最新の実践の導入が滞りやすい。特に高齢者ケアにおいては慢性的な人手不足にあり、看護職や介護職のモチベーション維持が必要不可欠である。また、その他の関連多職種の情報共有により、実践現場での協働がしやすくなるのではないかと考える。

そこで、高齢者ケアにおける多職種連携を促進するため、情報交流を目指した情報発信を目的に、WEB ネットワークをつくり、その活用可能性を探る。特に、摂食・嚥下、口腔ケア、栄養ケア、リハビリテーションなどをキーワードに高齢者ケアにかかわる情報発信と交流を行うこととした。

方法

1. 実施内容

新潟県立看護大学 Moodle 内にネットワークの拠点として「上越高齢者ケアネットワーク」のページを 2009 年 6 月 20 日に開設した。6 月 21 日に本学で実施した研修会参加者に本 HP を周知した。

その後、2009 年 7 月、2010 年 1 月、4 月に、新潟県下の病院、高齢者施設、訪問看護ステーション、地域包括支援センターに高齢者ケアネットワークの案内を送付し周知を図るとともに、2009 年 9 月、2010 年 2 月の本学で開催された研修会参加者に周知をした。

2. 利用ツール

オープンソースの LMS (Learning Management System) である Moodle を利用した HP を開設した。Moodle は、多くの LMS の中で利用率が高く、ネットを使ったコンテンツ配信、受講管理、コミュニケーションを行うツールである。小テストツールやレポート提出ツールもあり、e-learning をサポートするシステムである。一般的な HP 作成ソフトよりも細かなユーザ設定制限が可能で、各水準によるアクセス制限が可能であるためセキュリティ効率に優れている。ひとつの特徴として、文書やビデオなどのデータリソースごとの閲覧履歴が確認可能である。

3. 公開データのセキュリティ

Moodle の ID がない学内関係者以外に本 HP のみで有効の共通 ID, Pass を作成し、参加形式を制限付きの公開とした。また、データリソースはコピー禁でアップしている。公開するコンテンツ (文書など) については、作成者に使用目的を説明の上、許諾をとり掲載している。

結果

1. コンテンツ整備状況

HP 上のコンテンツについては、6 月から近隣の地域の先進的な取り組みなどの情報収集を始め、コンテンツを整備してきている。今後も追加予定である。

2. WEB アクセスの状況

折に触れて広報を行っているが、ま

だまだアクセス数としては少ない状況（図 1）である。6 月、7 月、1 月と周知した際にアクセス数が増える傾向にある。

表 1 コンテンツの整備一覧

2009 年 6 月	上越訪問口腔ケアセンターの紹介（上越歯科医師会・上越歯科衛生士会）
2009 年 10 月	排便ケアプロトコル報告書（日本老年看護学会研究班；副班長 原等子）
2010 年 2 月	高齢者の口腔管理（ながの歯科医院 山崎喜代子氏） やすらぎタイムへ行きませんか（上越地域医療センター病院 矢沢紀子氏） 排便ケア試行事例（日本老年看護学会研究班；副班長 原等子）
2010 年 3 月	口腔機能評価と食支援（上越訪問口腔ケアセンター 薄波清美氏） 高齢者のせん妄発症要因と予防的かかわり（新潟県立看護大学 菅原峰子氏）
2010 年 5 月	生活機能向上に資する支援機器の研究・開発（新潟県立看護大学 永吉雅人氏）
2010 年 6 月	ターミナルケアの取り組み（介護老人福祉施設和久楽 加藤美紀氏） 高齢者の転倒予防（新潟県立看護大学 須藤陽子氏） 高齢者の排泄ケア（上越地域医療センター病院 丸山サチ子氏）

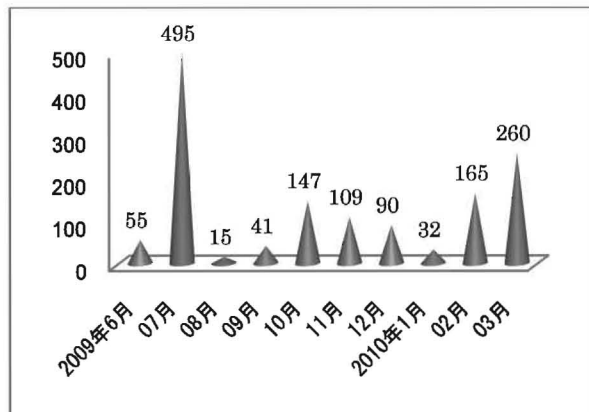


図 1 WEB アクセス状況
(2009 年 6 月から 2010 年 3 月まで)

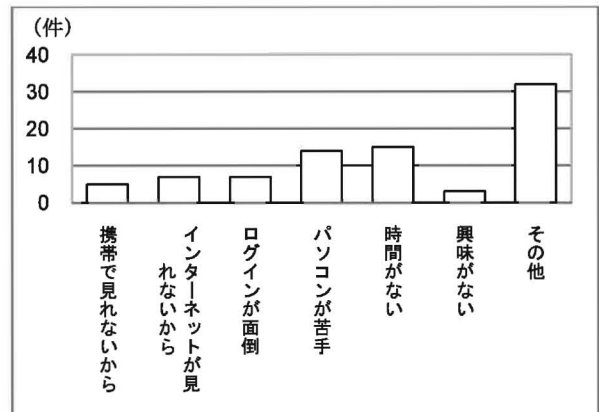


図 2 WEB を閲覧していない理由 (N=84)

また、2010 年 2 月に本学で開催された勉強会の参加者に、本 HP を周知する際にアクセス状況および閲覧ニーズに関する調査を行った。その結果、その勉強会の参加者でアンケートに回答した 84 名中で本 HP にアクセス経験があるものは 5 名 (5.95%) だった。さらに、閲覧していない理由を尋ねた結果、「HP の存在を知らなかった」などその他の記載が一番多かったが、存在を知っていた人の中で閲覧できない理由としては、パソコンが苦手、時間がないなどの理由が多かった。

考察および結論

HP へのアクセス数としてはまだ少なく、本 HP の認知も低い状況である。そのため、本 HP が地域における学習ニーズに対応しているといえる状況ではまだない。アクセス数が増えればコンテンツ毎のアクセス状況による分析も可能である。まず、HP の周知が第一の課題であり、第二にコンテンツの充足が課題である。折に触れ、地域の専門職のニーズを把握しながら、これらの課題に取り組んでいきたいと考えている。